

Ⅲ 地域の特徴的な取組事例

農林水産業は、生活する上で欠くことのできない食料等を供給するだけでなく、森林、農地、海及び川が持つさまざまな多面的機能を発揮することによって、私たちの暮らしを支えています。

食と緑の基本計画2015では、食と緑が支える豊かな暮らしの実現に向けて、県民のみなさんに取り組んでいただきたい2つの提案をしています。

1 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」に取り組みましょう

消費者の”思い”（＝ニーズ）に生産者がしっかりと応えるとともに、消費者も農林水産物に求めるものを積極的に伝えましょう。また、生産者は商品等を提供すると同時に、生産にかける”思い”（＝こだわり、セールスポイント）を消費者にしっかり伝える努力をしましょう。

新城設楽地域には、豊かな山林やこだわりのある伝統的食文化、平地との標高差を生かした農産物栽培などが盛んです。これらの特徴を生かした消費者ニーズの把握などに取り組みましょう。

2 「農・林のある暮らしの事例」を実践しましょう

農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れることです。

具体的には農林水産業に関する知識を深めることや地産地消の実践、農林漁業体験への参加、都市農村交流活動などに積極的に取り組むことです。

平成24年度に地域で行われたこの2つの取組の特徴的な事例を紹介します。

これを参考として今後とも、それぞれの立場から積極的な取組をお願いします。

市町村・農協組合長等の朝ご飯見せて 食育推進ボランティア連携企画

◎取組の概要

管内の市町村長及びＪＡ組合長、新城設楽農林水産事務所長のコメント付き朝食写真「がんばるお父さんの朝ご飯見せて」を新城設楽地域食育推進ボランティア連携企画として管内イベントで展示しました。展示されたみなさんの朝食は地元産のお米を始め、野菜等も地元産のものが多く使われていて、地産地消のバランスのとれたものでした。同時に伝統野菜の「八名丸さといも」や「天狗なす」のパネル展示、いいともあいち運動のパンフレットを配付し、地産地消をＰＲしました。



「天狗なす」と展示を前に並ぶ
食育推進ボランティア(H24.8.3)

◎取組の成果

展示及びパンフレットの配付は、8月4、5日の「食彩フェスタ」(参加者1万人、設楽町内開催)、10月28日の「新城市健康まつり」(参加者300人、新城市内開催)、11月3日の「東栄フェステバル」(参加者1万2千人、東栄町内開催)、11月10日の「山と水と緑の協同組合まつり」(参加者800人、新城市内開催)で行いました。

どのイベントでも、会場の一部に展示コーナーを設けて、参加者に展示物を説明したり、パンフレットを配布することで地産地消がＰＲできました。



食彩フェスタでの展示コーナーでの様子
(H24.8.3)



山と水と緑の協同組合まつりの賑わい
(H24.11.10)

◎今後の展開方向

- ・食と緑あいちブランド創出事業のPRをしていきます。
- ・あいちの伝統野菜の「天狗なす」と「八名丸さといも」消費拡大を目指す。
- ・県としては、奥三河を中心とした「いいともあいち運動」のさらなるPRに加え、食育推進事業などを広く紹介していきます。

伝統的こだわり製法のトチ餅販売 「モカル富山」(豊根村旧富山村地区)の地域ブランド

◎取組の概要

豊根村指定管理者「有限会社モカル富山」では、旧富山村地区の農産物加工品、トチ餅の製造・販売をしていますが、特産品としてのPR方法をどうしたらよいか悩んでみえました。

農政課では、食と緑あいちブランド創出事業により消費アドバイザーや大学教授の助言を受けるブランド創出委員会を勧めました。委員会は、現地で開催し、委員から「この村にしかない物、歴史が大きな売り物になる。」とアドバイスを受けました。

この助言を受けて、モカル富山では、トチ餅製造へのこだわりや伝統的な製造方法を積極的に宣伝することにしました。



トチ餅の生産風景(H24.12月上旬)



食と緑のあいちブランド創出委員会
(H24.11.1)

◎取組の成果

- ・平成 24 年 12 月 19 日トチ餅の伝統的製造方法が新聞の県版に掲載され、電話注文が急増。
- ・平成 25 年 2 月 23 日トチ餅のあく抜き木灰不足の記事が新聞の東三河版に掲載。
- ・平成 25 年 2 月 27 日新聞読者からトチ餅の木灰が持参、宅配。新聞東三河版記事。

◎今後の展開方向

- ・新聞読者から寄せられた木灰を使い、トチ餅の製造を再開。
- ・化学薬品などを使わない伝統的製造方法を守り、それを販売宣伝の売り物にしてゆく。
- ・地域資源を活かし、田舎らしさ、地域の良さを前面に出したPRをします。



完成したトチ餅(H24.12.15)



来富館農産物販売コーナー
(H24.11.1)

「しんしろ紅茶」飲みやすくておいしいと好評！

◎取組の概要

新城市は香り高いせん茶の産地で、生産量は愛知県1位です。これまでのせん茶に加えて、最近ではかぶせ茶の生産も盛んになっています。かぶせ茶は水色が鮮やかな緑色で、甘み・うまみが濃縮されたお茶です。さらに新たな動きとして、国産紅茶の人气が高まりつつあることから、消費者層の拡大のため、新城市産の紅茶生産を支援しました。

◎取組の成果

先進的な紅茶生産の取組農家と協力して、消費者への試飲アンケート調査、新規取組農家の確保、栽培加工の技術的な支援、他優良産地の取組紹介等を行いました。

■試飲アンケート調査

つくで祭り会場で、新城紅茶の試飲アンケート調査を実施しました。156名の消費者に試飲していただいたところ、「気に入った」62%、「普通」28%、「今ひとつ」2%で、ほとんどの方が良い評価をしていただきました。おいしい、飲みやすいとの感想が多く、新城紅茶の品質が消費者に受け入れられました。

■新城紅茶の販売

取組農家は、商品説明チラシに、①新城の茶園で茶摘みして生産、②急須で気軽に飲める紅茶、③ミルクや砂糖なしでおいしくいただける、と記載して、試飲販売しました。

これまで緑茶売場に立ち寄りなかった消費者でも、地域で生産された紅茶には関心が高く、集客効果が大きいことがわかりました。

また関係機関の支援を受けて、愛知東農協の直売所や各種イベント会場でPRしてきた結果、市外からも注文が入るようになり、紅茶販売は順調に進んでいます。

■取組拡大、組織化

紅茶生産の気運が高まり、新規に3名の茶農家が紅茶を生産し、直売を始めました。

紅茶生産農家4名の組織化や生産本格化に向けた活動を進めています。

◎今後の展開方向

生産販売については、茶農家・市・農協・県が一体となってしんしろ紅茶の特産化に向けた活動を推進してきました。しんしろ紅茶は、新城茶生産の活性化につながると期待する声もきかれます。第二東名の開通に向けて、新城市の特産品の1つにあげていただけるよう、今後も生産販売の支援を続けていきます。



写真1 試飲アンケート調査



写真2 各生産者の新城紅茶

伝統正月飾り体験やジビエ料理講習会開催 農村生活アドバイザーとしての取組み

◎取組の概要

農村生活アドバイザーは、農村・農家生活の知識や技術を生かし、女性のリーダーとして農業の経営や生活向上を図ることを目的としています。取組としては、アドバイザー相互の親睦と連帯を深め、地元農業の発展と地域の活性化を目的とした企画をしています。

管内の農村生活アドバイザーは新城設楽支部に所属し、新城市在住の新城分会、設楽町・東栄町・豊根村在住の設楽分会に分かれ、それぞれが独自の活動を展開しています。

◎取組の成果

平成24年11月7日(水)に新城分会は、県民の森(新城市)にて地域に合った防災の知識・技術を学習し、11名が参加し、地元で災害が起きたとき農村女性として何ができるのか考え、防災に備えることができました。お釜、飯盒、炊飯袋を使ったご飯炊きと旬の地元農産物を持ち寄って味噌汁や煮物等を作りました。



ご飯炊きの自習(H24.11.7)

平成24年12月15日(土)に設楽分会は、つぐ保健福祉センター(設楽町)にて設楽町の小学生等とその親を対象に伝統技術”やす作り・もち花作り”の体験指導を行ない、4名が参加しました。「やす」とは正月飾りで神様に供える食器の意味があり、今ではほとんどの家庭で飾ることは不是ですが、これを機に地元の子供達や親に伝統を伝えることができました。



やす作りでわらを編む(H24.11.7)

平成24年11月29日(木)に新城設楽支部は津具集落センター(設楽町)にて支部別学習会を開催し、18名が参加しました。内容は地元農産物を使ったジビエ料理講習会で講師にオーベルジュ・エスポワールの藤木徳彦氏(長野県)を招いて獣肉の特性や調理のポイントを学びました。意見交換では獣肉の流通における問題点と対策について話し合い、加工の重要性やPR方法の留意点を知ることができました。



藤木シェフから教わる(H24.11.7)

◎今後の展開方向

農村女性のリーダーとして自らの能力と役割を発揮し、地域の活性化に貢献します。

農村女性の社会的評価・地位の向上に向けて男女共同参画を推進する取組みを実施します。

森林と地域通貨を利用した地域再生プロジェクト 奥三河連携木の駅プロジェクト

◎取組の概要

平成 24 年 10 月 8 日とうえい木の駅プロジェクトの木の受け入れが始まりました。木の駅プロジェクトは山主や地域住民が捨て切り間伐の山から丸太を搬出し、土場に検尺して搬入・伝票を木の駅ポストに入れると、1t 6,000 円の地域通貨（オニ券）がもらえるという取り組みです。

集められた丸太は、チップ材として買い取られていますが、3,000 円／1tにしかありません。不足分は寄付金や補助金でまかなわれています。

同様の取組は新城市秋葉街道周辺でも行われました。（地域通貨は秋葉券）



木の駅プロジェクトに木材を運ぶ軽トラ
(H24.10.8)



軽トラから丸太を積み上げる
(H24.10.8)

◎取組の成果

2月22日の報告会では東栄町で90t、秋葉道で150tの出材が見込めるとのことでした。なにより、地域住民が山に転がっている丸太に価値を見出し、山に足を運ぶようになった、地域通貨を使って地元の商店街に行くようになったことが大きな成果といえます。

東栄木の駅プロジェクト実行委員会では、山を持たない人にも参加してもらうべく、山のお見合いを実施し、地域の山を山主以外の住民も活用できるよう活動しています。

◎今後の展開方向

次年度以降も、新城東栄両地域の木の駅活動は継続されていくそうです。山に転がっている丸太を、地域の資源として活用する取組が広がることを期待されています。

路網整備と計画的施業の促進に向けた啓発活動
元気だぞ林業!! 森林経営計画支援研修シンポジウム

◎取組の概要

愛知県及び森林加速化・林業再生事業新愛知県協議会の主催、新城地域林材業振興協議会の後援により、平成 25 年 1 月 30 日に新城文化会館小ホールでシンポジウムを開催しました。

林業の活性化と持続可能な森林づくりのために、森林施業を集約化し効率的に実施する「低コスト木材生産」を推進しています。この低コスト化には路網整備が不可欠で、地域の地質等を踏まえ創意工夫の下に継続使用に耐える丈夫で簡易な路網を配置することが望まれます。

このシンポジウムでは、林野庁の森林・林業再生推進本部で路網・作業システム検討委員会座長を務められている酒井教授を招き基調講演を、また、地域に優しい路網整備を推進するため、調査設計、開設、利活用、自然環境・野生鳥獣との共生、に携わる 4 業界の有識者を招きパネルディスカッションを行い、各業界と森林所有者他の方々に対し啓発を行いました。

第 1 部：基調講演 演題「愛知県の地形・地質条件に合った路網整備」

講師 酒井秀夫 氏（東京大学 大学院 農学生命科学研究科 森林利用学研究室 教授）

第 2 部：パネルディスカッション テーマ「路網整備に適した作業システムと木材搬出」

コーディネーター 酒井秀夫 氏

パネリスト 岸上勇 氏（㈱森林テクニクス名古屋支店）、田村太一 氏（㈱田村組）

夏目隆久 氏（森林環境アドバイザー）、尾藤勝昭 氏（新城森林組合）



パネルディスカッションの開催状況 (H25.1.30)



参加した新城高校環境デザイン科の生徒

※写真は東海日日新聞社から提供（H25.1.31 掲載記事）

◎取組の成果

シンポジウムには県内外の国・県の行政機関やコンサルタント業界、県内の林業事業者や建設業界の方々など 246 名が参加しました。

このシンポジウムカリキュラムは、（一社）森林・自然環境技術者教育会の森林分野 CPD に認定されており、コンサルタント業界から 19 名が登録しています。

当日は、関係者への路網計画の普及に加え、県立新城高校環境デザイン科 3 年生の生徒 36 名が基調講演を真剣な表情で聞き入っており、後継者育成の面からも幅広く普及できました。

◎今後の展開方向

参加者の皆さんが理解し感じたことが、それぞれの活動する仕事や現場で活かされるよう、現地の地形・地質を理解して路網計画を推進する普及啓発活動を継続して行っていきます。

広域農道沿いで都市住民と植樹交流会

◎取組の概要

名倉地区営農推進協議会（設楽町西納庫）では、都市部と地元住民の植樹交流会を平成 21 年度から行っており、平成 24 年 10 月 28 日に 4 回目となる交流会を開催し、建設課で施工している広域農道 奥三河地区に隣接する土地に、ナナカマドの苗木 100 本とサルスベリの苗木 140 本を植樹しました。

名倉地区営農推進協議会は名倉地区の農業を通して地域振興を図る協議会で、会員は名倉地区の町議会議員、区長、農業委員、受託部会、トマト部会、農村生活アドバイザー代表、名倉高原生産組合（道の駅アグリステーションなぐら）や各組織の代表により運営されています。



協議会から植樹の説明(H24.10.28)



植樹の体験(H24.10.28)

◎取組の成果

- ・参加者募集を新聞などに掲載し、名古屋市や岡崎市などの家族連れ 60 人が参加しました。
- ・植樹後は、交流施設「ばんじゃーる駒ヶ原」で、きのこ汁、名倉高原米のかまど炊き、ふくちゃんの黒豆寿司などの昼食を味わいました。
- ・都市部との交流活動を通じて、設楽町農産物のPRができました。



味覚交流会(H24.10.28)



記念の寄せ書き(H24.10.28)

◎今後の展開方向

- ・植樹は今回限りですが、寄せ書きやウォーキングなど地域で工夫したイベントも行っており、今後も都市部の参加意欲が高まる企画を地域で考え、交流活動を継続します。